

2012年3月期 決算説明会



2012年5月9日

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おきください。

1

<はじめに>

2011年度決算の概要と今期の見通しおよび今後の事業戦略についてご説明いたします。

2011年度 連結業績

(百万円)

	2012年3月期 実績	2011年3月期 実績	増減率
売上高	242,708	210,455	+15.3%
デバイス事業	209,000	177,713	+17.6%
システム事業	33,707	32,742	+2.9%
売上総利益	18,025	17,033	+5.8%
販管費	15,183	14,278	+6.3%
営業利益	2,842	2,754	+3.2%
経常利益	2,375	2,217	+7.2%
当期純利益	1,017	577	+76.3%

www.marubun.co.jp

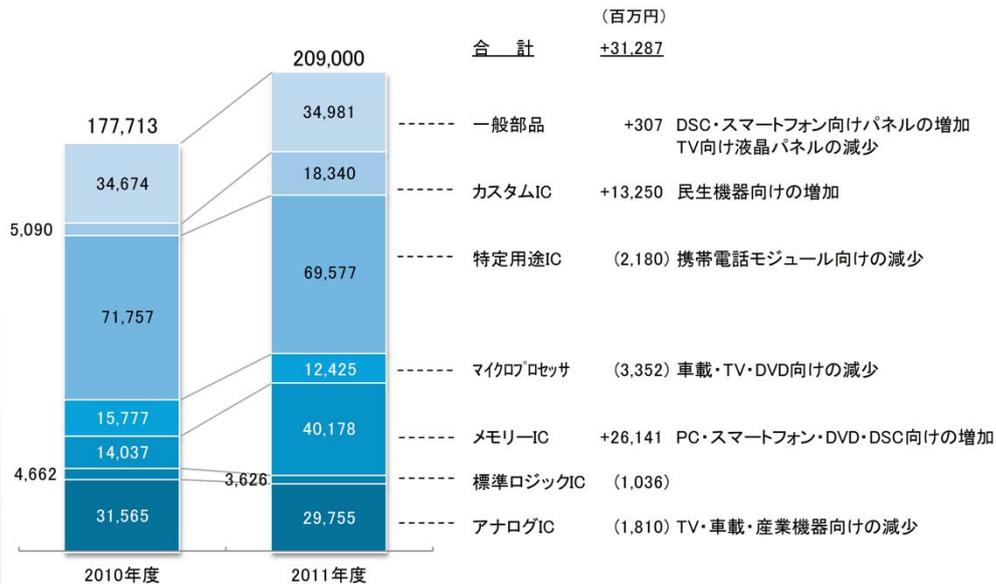
2

丸文株式会社

<2011年度決算について>

- 当社グループの2011年度の業績は、震災や洪水、テレビ需要の減少等の影響があったものの、サムスン事業の譲り受けの効果により、売上高は15.3%増の2,427億円、営業利益は3.2%増の28億円、経常利益は7.2%増の23億円となりました。
- 当期純利益は、投資有価証券売却益の計上や投資有価証券の評価損等の減少により、76.3%増の10億円となりました。

デバイス事業 品目別売上高実績



www.marubun.co.jp

丸文株式会社

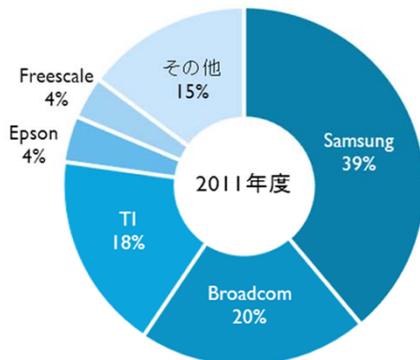
3

<セグメント別: デバイス事業の品目別売上高>

- デバイス事業の売上は、2011年7月に事業を譲り受けたサムスン電子製品の販売事業が寄与したことにより、前年度に比べ312億円増の2,090億円となりました。
- 品目別では、アナログICは、震災影響により車載向けが減少したほか、産業機器向けも減少しました。
- メモリーICは、PCやテレビ向けのDRAM、SDカード向けのフラッシュメモリ、スマートフォンやデジカメ向けのマルチチップパッケージなどが大幅に増加しました。
- マイクロプロセッサの減少は、車載やテレビ、DVD向けの需要減によるものです。
- 特定用途ICは、携帯電話モジュール向けのICが減少しました。
- カスタムICは、民生機器向けASICの新規案件が伸長しました。
- 一般部品は、デジカメ向けの液晶パネルやスマートフォン向けのタッチパネル、有機ELが増加しました。

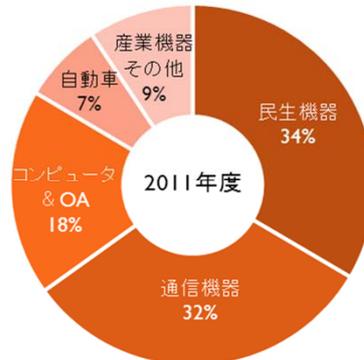
デバイス事業の仕入先別/用途別売上高

仕入先別売上高



2010年度	仕入先	売上高
27%	Broadcom	
25%	TI	
21%	Samsung	
6%	Epson	
5%	Freescale	

用途別売上高



2010年度	用途	売上高
34%	通信機器	
32%	民生機器	
14%	コンピュータ&OA	
8%	自動車	
12%	産業機器,その他	

www.marubun.co.jp

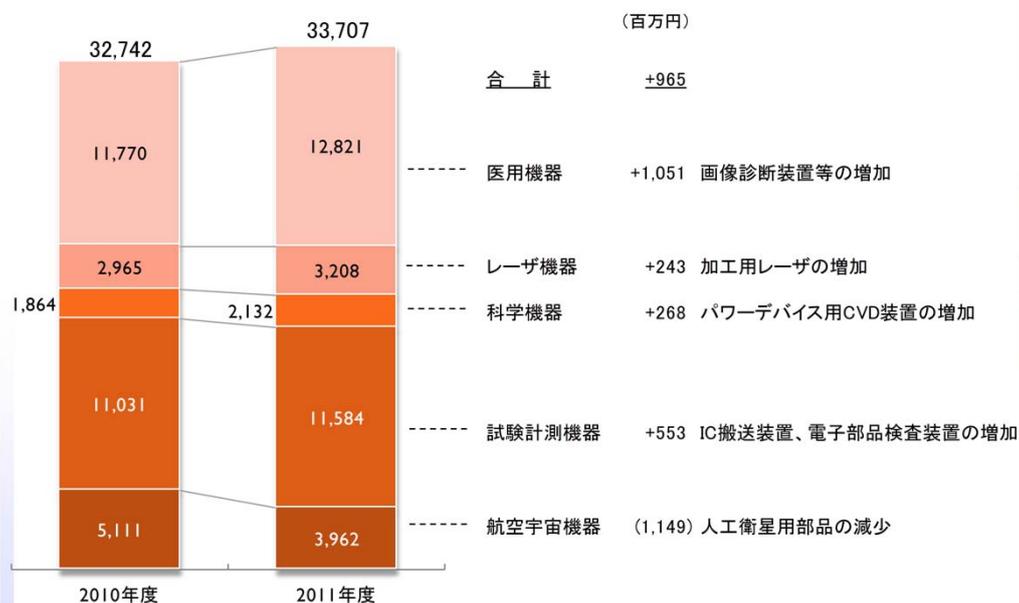
丸文株式会社

4

<セグメント別: デバイス事業の仕入先別/用途別売上高>

- 仕入先別では、主力3社の売上構成比が前年度の73%から77%に上昇しました。
- サムスン電子は、事業譲受けの効果で、21%から39%へと大幅に上昇しました。
- ブロードコムは、通信用ICの減少により20%になりました。
- TIは、震災影響やテレビ向けの需要減により18%になりました。
- 用途別では、民生機器が34%、通信機器が32%、コンピュータ・OAが18%になりました。
- 民生機器は、デジカメやSDカード向けが増加しました。
- 通信機器は携帯電話モジュール向けが減少、コンピュータ・OAはPC向けが増加しました。

システム事業 品目別売上高



www.marubun.co.jp

丸文株式会社

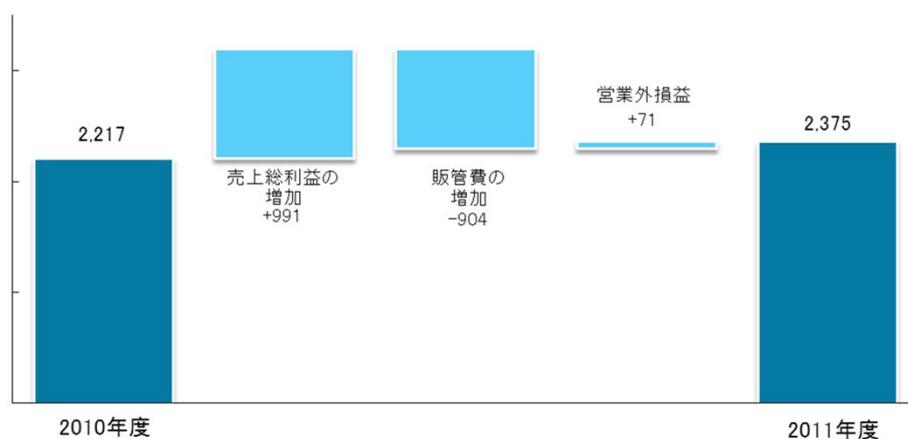
5

<セグメント別:システム事業の品目別売上高>

- システム事業の売上は、前年度に比べ10億円増の337億円になりました。
- 航空宇宙機器は、人工衛星搭載用部品の減少で、11億円の減収となりました。
- 試験計測機器の増加は、震災・洪水の復興需要や、スマートフォン・タブレット端末向け電子部品の検査装置が増加したことによるものです。
- 医用機器は、CTスキャナやMRIなどの大型機器の需要増で、10億円の増加となりました。

経常利益の増減要因

(百万円)



www.marubun.co.jp

【売上総利益】 売上総利益率 2010年度 8.1% → 2011年度 7.4%
【販管費】 退職給付費用の増加、ユニーデバイス社からの事業譲受けによる増加
【営業外損益】 為替差損益 2010年度 差損 288 → 2011年度 差益 26

6

丸文株式会社

<経常利益の増減要因>

- 売上総利益は、売上の増加に伴い前年度に比べ10億円の増加となりました。
- 売上総利益率は、比較的利益率の低い半導体の売上が伸びたため、8.1%から7.4%に減少しました。
- 販管費は、退職給付費用や事業譲受けによる人件費の増加により、前年度に比べ9億円の増加となりました。
- 営業外損益は、為替差損益が前年度の2億8千万円の差損から2千万円の差益に転じました。
- 以上の結果、経常利益は1億5千万円増加の23億円となりました。

連結貸借対照表

(百万円)	2012年3月	2011年3月	増減額	主な増減理由
流動資産合計	110,554	95,280	15,274	
現金及び預金	18,123	16,330	1,793	
受取手形及び売掛金	66,611	46,599	20,012	売上増加に伴う増加
商品及び製品	22,666	29,024	(6,358)	
仕掛品	51	9	42	
繰延税金資産	1,198	1,228	(30)	
その他の流動資産	1,934	2,116	(182)	
貸倒引当金	(31)	(29)	(2)	
固定資産合計	10,491	11,274	(783)	
資産合計	121,045	106,554	14,491	
流動負債合計	66,163	65,660	503	
支払手形及び買掛金	42,506	32,478	10,028	サムスンビジネス拡大による増加
短期借入金	18,781	10,660	8,121	
1年内返済予定の長期借入金	1,534	20,034	(18,500)	
1年内償還予定の社債	48	48	0	
賞与引当金	718	744	(26)	
その他の流動負債	2,574	1,693	881	
固定負債合計	18,586	5,280	13,306	
社債	21	70	(49)	
長期借入金	16,072	2,606	13,466	
その他の固定負債	2,493	2,604	(111)	
負債合計	84,750	70,940	13,810	
純資産合計	36,295	35,613	682	
負債純資産合計	121,045	106,554	14,491	

www.marubun.co.jp

7

丸文株式会社

<貸借対照表の変動要因>

- 総資産は、流動資産の増加によって、前年度末に比べ144億円の増加となりました。
- 流動資産は、在庫が63億円減少した一方で、売上債権が200億円増加しました。
- 売上債権が大幅に増加したのは、事業譲受け等による事業拡大によるものです。
- 負債は、前年度末に比べ138億円の増加となりました。これは主に買掛金の増加によるものです。

連結キャッシュフロー計算書

(百万円)	2012年3月期 実績	2011年3月期 実績	主な増減理由
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,836	(6,792)	
税引前当期純利益	2,407	1,488	
減価償却費	499	638	
持分法による投資損益	(65)	(92)	
売上債権の増減額	(20,229)	6,013	売上増加に伴う増加
たな卸資産の増減額	11,817	(13,867)	
仕入債務の増減額	10,148	(2,289)	サムスンビジネス拡大による増加
その他	1,234	2,254	
小計	5,811	(5,854)	
利息及び配当金の受取額	82	48	
利息の支払額	(548)	(540)	
法人税等の支払額	(553)	(558)	
法人税等の還付額	44	112	
投資活動によるキャッシュ・フロー	(5,824)	577	事業譲受けによる支出 5,777百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,751	(1,733)	借入金の純増 短期+8,209百万円、長期△5,034百万円
現金及び現金同等物の期末残高	17,923	16,078	

www.marubun.co.jp

8

丸文株式会社

<キャッシュフローの状況>

- 営業キャッシュフローは、48億円の資金の流入となりました。これは、売上債権が増加した一方で、たな卸資産の減少や仕入債務の増加があったことによるものです。
- 投資キャッシュフローは、事業譲受けによる支出が発生したことにより、58億円の資金の流出となりました。
- 財務キャッシュフローは、短期借入金の純増、長期借入金の純減等により、27億円の資金の流入となりました。
- 以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は179億円となりました。

2012年度 連結業績予想

(百万円)

	2013年3月期 予想	2012年3月期 実績	増減率
売上高	238,000	242,708	(1.9%)
デバイス事業	199,750	209,000	(4.4%)
システム事業	38,250	33,707	+13.5%
売上総利益	18,800	18,025	+4.3%
販管費	15,650	15,183	+3.1%
営業利益	3,150	2,842	+10.8%
経常利益	3,050	2,375	+28.4%
当期純利益	1,550	1,017	+52.3%

www.marubun.co.jp

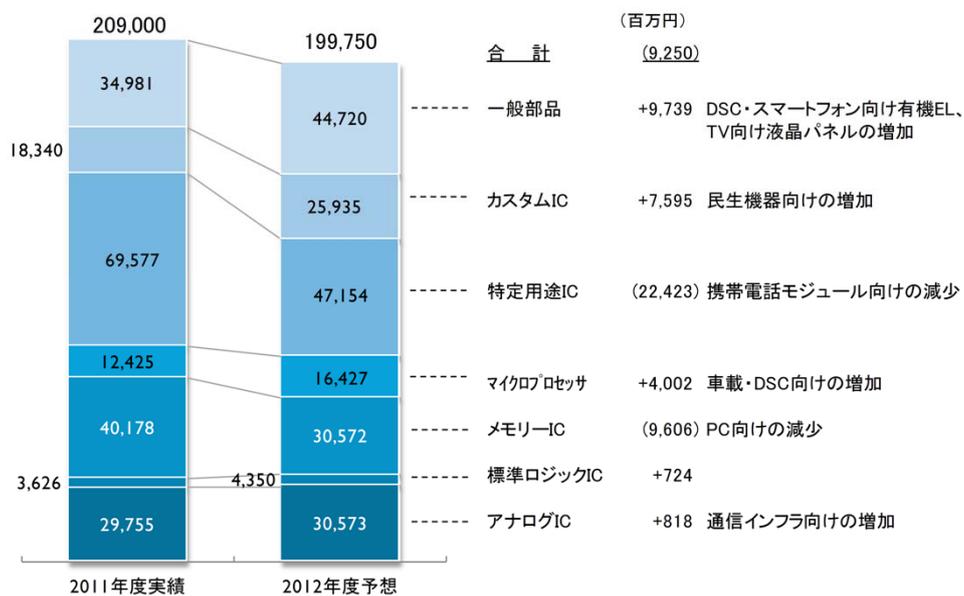
9

丸文株式会社

<2012年度の見通し>

- 連結売上高は、デバイス事業での大型案件の減少を見込み、1.9%減の2,380億円の予算を組みました。
- 営業利益は、比較的利益率が高い製品の売上構成比が増加することで、売上総利益率が改善し10.8%増の31億円となる見込みです。

デバイス事業 品目別売上高予想



www.marubun.co.jp

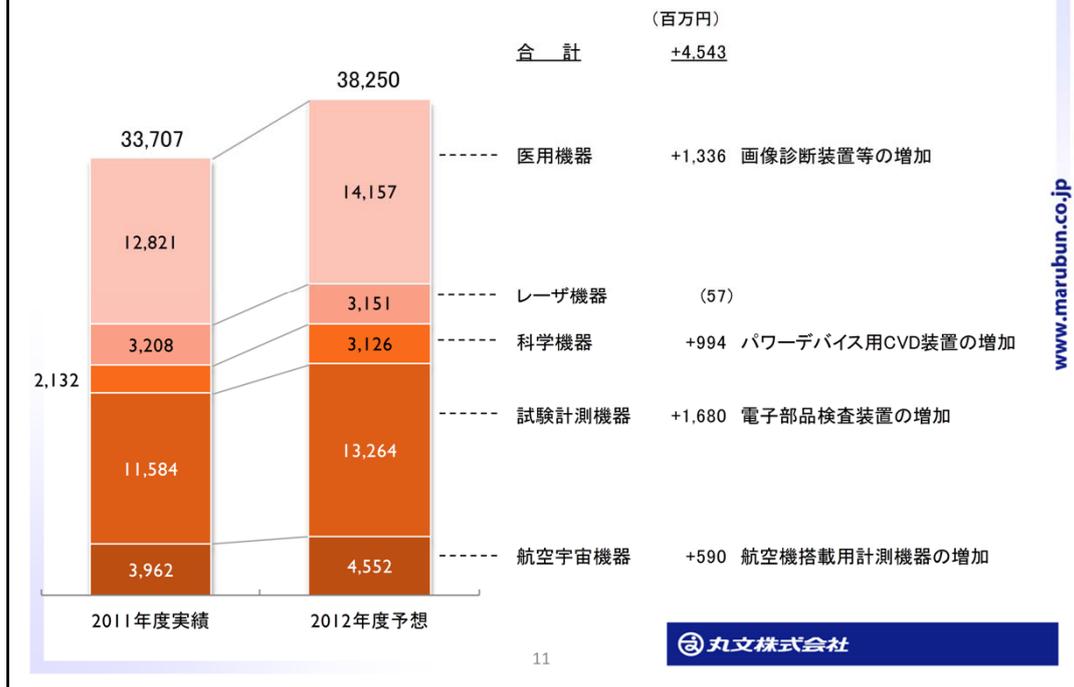
丸文株式会社

10

<セグメント別: デバイス事業の売上高予想>

- デバイス事業の売上は、92億円減少の1,997億円となる見通しです。
- メモリーICは、PC向け大型案件の減少を見込んでおります。
- マイクロプロセッサの増加は、商権移管や車載向けの増加によるものです。
- 特定用途ICは、携帯電話モジュール向け大型プロジェクトの終息を見込んでおります。
- カスタムICは、民生機器向けのASICの増加を見込んでおります。
- 一般部品では、デジタルカメラ・スマートフォン向けの有機ELやTV向けの液晶パネルの増加を見込んでおります。

システム事業 品目別売上高予想



<セグメント別:システム事業の売上高予想>

- システム事業は、売上が45億円増加する見込みです。
- 航空宇宙機器では、航空機搭載用計測機器などの増加を見込んでおります。
- 試験計測機器は、スマートフォンやタブレット端末向け、車載向けでの検査装置の増加を見込んでおります。
- 科学機器の増加は、パワーデバイス向けCVD装置の需要増によるものです。
- 医用機器は、CTスキャナや人工透析機器などの増加を見込んでおります。

収益力向上の施策

■ 事業部制を廃止し営業統轄本部に一本化

- 仕入先・顧客別に再編し、組織のミッションと達成責任を明確化
- 人員配置や経費支出をベンチマークし採算性を向上

■ サプライヤとの戦略共有の進化

- 新規案件獲得数やデザイン・イン件数などサプライヤが重視する指標を採用

■ 滞留在庫の監視強化



資本効率を向上、キャッシュフロー重視の経営へ

<収益力向上のための施策>

- 2011年度は震災や洪水の影響があったものの、増収増益の業績を達成することができました。
- しかし、当社の株式は1株当たり純資産が1300円であるにも拘わらず、現在の株価は400円前後と、誠に低い水準にあります。
- これは、株主の皆さまから期待された収益をあげていくことができていないと評価されているためであろうと思われます。
- 収益力向上が私の使命であると認識し、今年度は次の施策に取り組んでまいります。
- まず、競争力の源泉となる人的資源の活性化策として、大幅な組織変更を2012年1月に実施しました。事業部制を廃止し営業統轄本部として1本化するとともに、仕入先・顧客別に再編して権限委譲も進めました。今後は各部門の責任者に従来にも増して目標の達成責任を求めていきたいと考えております。組織ごとに人員配置や経費支出をベンチマークし、採算性の向上を図ってまいります。
- また、新規案件獲得数やデザイン・イン件数などサプライヤが重視する指標を評価指標として採用し、仕入先との戦略共有を進めていく方針です。
- 在庫管理についても滞留状況を一層きめ細かく監視し、資本効率の向上と、キャッシュフロー重視の経営を進めていきたいと考えております。

デバイス事業戦略

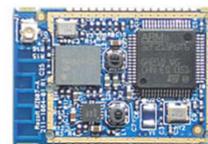
■ ワールドワイドでのシェア拡大

- 国内外でミッション・戦略を共有し、販売促進
- 生産移管・現地調達・技術などのサービス体制を一層強化
- 商権の積極的な拡大

■ Demand Creation機能の強化

- サプライヤの特長を活かしたシステム提案の推進

TI	アナログ・マイコンのFAE増強、車載・通信分野に強化
Samsung	メモリーやディスプレイ製品をスマートフォンやDSCに注力
Broadcom	スマートグリッド向けで他の商材と組合せて提案
旭化成	カーエレクトロニクス分野に拡販、商権拡大



ReZolt社
エナジーマネジメント向け
省電力無線センサーモジュール

www.marubun.co.jp

■ 新規商材の開発推進

- スマートグリッド、ヘルスケア、セキュリティ、ワイヤレス分野のラインカード強化

13

丸文株式会社

<デバイス事業戦略>

- デバイス事業では、採算性の改善を図りつつ、「ワールドワイドでのシェアの拡大」「Demand Creation機能の強化」「新規商材の開発推進」に取り組んでまいります。
- 1点目の「ワールドワイドでのシェアの拡大」においては、お客様の海外生産移管が加速的に進んでいく中で、国内外一体となった販売活動を推進してまいります。
- 2012年1月の組織変更で、当社の海外事業を担う丸文アローアジアのCEOを営業統轄本部の責任者に登用し、丸文と丸文アローアジアがミッション、戦略を共有できる土台を整備しました。
- 海外生産移管のサポートや現地での半導体・電子部品の調達、技術サポートなど、お客様へのサービス体制の充実を一層注力してまいります。
- また、取引先企業の再編をチャンスと捉え、商権の獲得にも積極的に取り組み、シェア拡大を進めてまいります。
- 2点目の「Demand Creation機能の強化」についてですが、サプライヤ毎の特長を活かしながらお客様へのシステム提案を推進するとともに、回路設計サービスの強化や品質管理体制の整備に取り組んでまいります。
- TI製品につきましては、アナログやマイコン製品のFAEを増強し、車載や通信、産業分野への新規提案を強化していきます。また太陽光発電向けなど新たなアプリケーションへのデザインにも積極的に取り組んでまいります。
- Samsung製品については、製品競争力の高いメモリーやディスプレイ製品でスマートフォンやデジタルカメラでの採用増加を目指しております。また、Broadcomでは従来の携帯電話モジュール向けへの販売に加え、スマートグリッド向けなどで他の商材を組み合わせたデザイン活動を進めてまいります。
- 旭化成エレクトロニクス製品では、カーエレクトロニクス分野への拡販に注力しております。
- 3点目の「新規商材の開発推進」については、成長市場に向けた品揃えの強化を進めております。
- Nexpower社の太陽光パネルは、再生可能エネルギー全量買取制度の開始により、本格的な引き合いが出てきました。またバッテリー製品で有力なSamsung SDI社や、スマートグリッド関連機器向けの無線通信モジュールメーカーであるReZolt社と新たに代理店契約を締結しました。
- 今後も社会インフラ市場やヘルスケア、セキュリティ、ワイヤレスなどの成長市場に向けたラインカードの強化に取り組んでまいります。

システム事業戦略

■ ターゲット市場での取り組み

半導体市場	<ul style="list-style-type: none"> ICハンドラで日系海外工場の商権を獲得 スマートフォン向け電子部品検査装置やパワーデバイス向けCVD装置で成長市場を取り込み 安永と代理店契約、車載IC向け検査装置を拡販
情報通信・レーザ市場	<ul style="list-style-type: none"> Symmetricom社タイムサーバ、EXFO社計測装置を中心に通信インフラ向け商品を拡充 FA・工作機器向けの半導体レーザ、重機製造向け加工レーザの販売強化
医用機器市場	<ul style="list-style-type: none"> シーメンス商圏の拡大 資本参加した医療機器商社との協業推進

www.marubun.co.jp

14

丸文株式会社

<システム事業戦略>

- システム事業では、プロジェクトオリエンテッドの体制のもと、ターゲット市場ごとに、付加価値の高い商品の開発と提案を推進するとともに、日本企業の海外生産にも対応できる販売・サポート体制を整備・強化し、事業の拡大に取り組んでおります。
- システム事業で、現在注力している市場は、次のとおりです。
- 半導体市場では、ICハンドラー装置で、日系企業の海外工場への商権を取得しました。初年度はタイ洪水の復興需要もあり、好調に立ち上がりました。
- スマートフォンやタブレット端末向け電子部品の検査装置も需要が拡大し、極薄ウエハーの検査装置もリピートオーダーを獲得しております。
- Aixtron社の製品もパワーデバイス向けの引合いが活況で、今年度も製品力を強みに拡販を進めていく方針です。
- また半導体の検査装置では車載IC向け製品を中心とする安永と代理店契約を締結しました。
- 情報通信市場向けですが、通信インフラ投資の拡大を背景に、時刻や周波数の同期をはかるSymmetricom社のネットワークタイムサーバや、EXFO社などの各種計測装置が好調で、昨年度に増強を行ったラインカードを幅広くお客様に拡販してまいります。
- レーザのOEMビジネスでは半導体レーザをFAや工作機械向けに、加工用レーザを重機製造向けに販売強化してまいります。
- 北陸三県を中心にビジネスを展開している医用機器に関しては、主要な仕入先であるSiemensの商圏拡大や商材の拡充、資本参加した新潟県の医療機器商社との協業による当社取扱製品の販路拡大を進めてまいります。

株主還元

■ 配当予想

	2012年3月期	2013年3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	12円	15円
中間配当	5円	6円
期末配当	7円	9円

www.marubun.co.jp

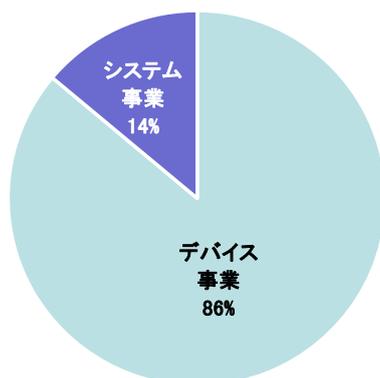
<株主還元>

- 2011年度の期末配当は7円とし、年間では12円の配当とする予定です。
- 2012年度につきましては、中間6円、期末9円、合わせて年間15円の配当を予定しております。
- 今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。

丸文について

会社概要

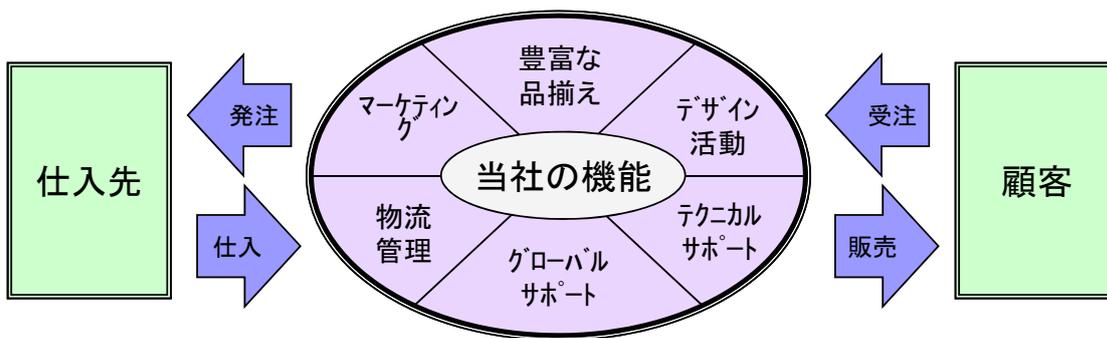
- 設立 : 1947年7月
- 資本金 : 6,214 百万円
- 事業内容 : 最先端エレクトロニクス機器・部品の販売
- 本社所在地 : 東京都中央区日本橋大伝馬町8-1
- 連結売上高 : 242,708百万円 (2011年度)
- 従業員数 : 1,345人(2012年3月末)



セグメント別
売上構成比

デバイス事業の特徴と強み

- 800社を超える顧客基盤
- TI・Samsung・Broadcom等の有力仕入先と幅広い商品群
- 商品提案からハード/ソフト開発、回路設計までの技術サポート
- Arrow社との提携によるグローバル販売ネットワーク



丸文株式会社

www.marubun.co.jp

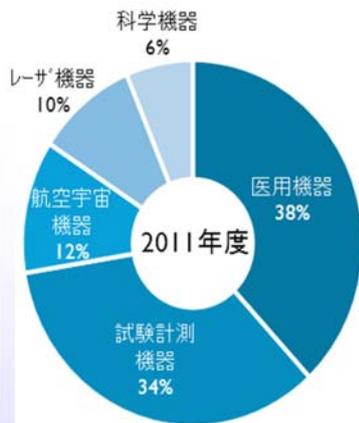
デバイス事業の主要取扱い商品

	Application						Supplier									
	Communication Equipment	Consumer Equipment	Computer & OA	Automobile	Industrial Equipment	Ashih Kasei Microdevices	Broadcom	Emerson	Freescale	International Rectifier	Maxim	Triquint	Samsung	Seiko Epson	Texas Instruments	Zoran
半導体																
アナログIC	Analog	●	●	●	●	●			●	●	●					●
	Discrete		●			●			●	●						
標準ロジックIC		●	●	●	●	●										●
メモリーIC	DRAM	●	●	●									●			
	Flash	●	●										●			
マイクロプロセッサ	MPU, MCU	●		●	●				●							●
	DSP	●	●		●	●			●							●
特定用途IC	ASSP	●	●		●		●	●	●			●		●	●	●
	Display Driver	●	●										●	●		
	DMD		●	●		●										●
	LED		●										●			
カスタムIC	●	●	●	●								●	●		●	
一般部品																
液晶パネル	●	●	●		●							●				
有機EL	●	●										●				
水晶デバイス	●	●		●	●									●		
ノートコンピュータ					●			●								

www.marubun.co.jp

システム事業の特徴と強み

- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据付保守まで一貫した高レベルの技術サポート

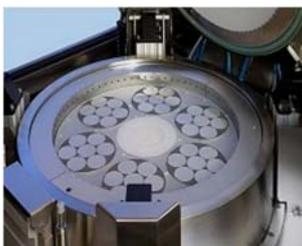


分野	主要取扱商品	主要仕入先
医用機器	画像診断機器	島津製作所, シーメンスジャパン, コニカミノルタルスクエア
	人工透析機器	日機装, 旭化成ケルメデイカル, カネカメディックス
試験計測機器	検査装置・試験計測器	ユニハイトシステム, アキム, DCGシステムズ, Chroma
	製造装置・組立装置	セイコーエプソン, Aurigin Technology, 日本アビオニクス
航空宇宙機器	高信頼性部品、計測・センサ	Tele Communication Systems, Plascore
	航空関連機器、高周波電子機器	AAI, CPI, L3 Communications
	レーザー光特性計測器・光学計測装置	Lavision, LTB Lasertechnik
レーザー機器	半導体レーザー・レーザー加工機	Laserline, nLight, OSI Laser Diode
	ネットワーク・光学部品	Symmetricom, Calnex Solutions, EXFO, Excelitas Technologies
科学機器	MOCVD装置, in-situモニタリングシステム	AIXTRON, LayTec

www.marubun.co.jp

丸文株式会社

システム事業の主要取扱い商品



Aixtron AG (ドイツ)
MOCVD装置



株式会社ユニハイトシステム
X線検査装置



Symmetricom Inc. (米国)
ネットワークタイムサーバー



Chroma ATE, Inc. (台湾)
LEDインスペクションシステム



Laserline GmbH (ドイツ)
加工用半導体レーザー装置



株式会社島津製作所
CTスキャンシステム

www.marubun.co.jp

丸文株式会社